

医局だより

講師 藤本久貴

川崎医大眼科学1教室は、近年入局希望者が大きく増加しており、大変ありがたく感じています。主任教授の人柄のにじみ出る自由闊達な医局文化が育っており、若い先生方が生き生きと積極的にスポンジが水を吸うが如く成長されているのが何よりも頼もしく感じます。大学医局では専門医取得まで白内障手術以上は禁じられる事もしばしばである中、当教室所属の先生は専門医取得までに全員硝子体手術が網膜剥離を含め一人前に執刀可能に成長されており、日本で最も成長の早い眼科医局であることは間違いありません。

私自身の近況を振り返りますと、先日製薬会社創業者基金による研究助成内定を頂きました。過去受賞者には教授になられている方など複数おられ、身が引きしまる思いです。これで私一人のここ1年の獲得外部資金は過去最高の1412万円となりました。阪大眼科在籍時には某巨大プロジェクトに参画していたことから名目上1000万超えの事があり、生涯これを超えることはないだろうと思っておりましたが、周囲の方々のご支援の賜物と感謝の念に耐えません。

2019年は角膜移植症例は31例となりました。全層移植が約50%、内皮移植が25%、ほかDALK2例、輪部移植1例など高度な角膜移植実施体制も整いました。岡山大学が悲しい出来事もあり角膜診療から完全撤退したことから岡山県下唯一の移植施設となった責任も感じます。チームを担って下さった若い優秀な先生方やスタッフの方々に厚く感謝申し上げますとともに、今後県全体の重責に応えるべく体制整備に尽力したいと思います。

また角膜内皮治療分野で、急性期、慢性期、白内障手術期ともに興味深い知見を得ることができ、米国眼科学会（ARVO）に2演題発表致しました。Web開催となった現時点で日本からは7演題の発表であり、日本を代表する(?)眼科医局となりました。また関連して特許出願も行うことができました。学会発表を担当して下さる若い先生方および出願のアドバイスをくれた妻に心から感謝いたします。

今後も大きな課題が控えており、成功裏に遂行できるよう心を砕いてまいりたいと思っております。皆様方からのご支援に厚く感謝申し上げますと共に、さらなる精進を心新たにしております。

令和2年5月